

保護者からの手紙（第5回－1）

柿本様

この度は大変貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。
息子だけでなく親の私にとってもとても良い修業になったと思います。

息子は今まで経験したことのないつらさ、
痛みにも耐えて、あきらめることなく最後まで頑張ってくれました。
家にいたのではこのような体験はありえないし、
親といたのではすぐにあきらめていると思います。
やはり家族と離れる経験は本当に大切な事だと思いました。
自分の力で最後まであきらめず完歩する。
自分にもできるという事を身をもって感じてほしいというのはもちろんありました。
できればもう一つ感じてほしい事があったのですが、
帰ってきてすぐに息子の口からそれが聞けて本当にうれしかったんです。
それはボランティアの存在です。
自分の力だけで完歩したようでも実はそうではないこと、
ボランティアの方々の力がどれだけ大きいか、
みんなより少し遅れたことによってよりよく感じる事ができたようです。
セーフティネットの方々の話は特によく聞かせてくれました。

帰ってきていろいろな方に声をかけられ、
誰の質問にもまず「本当につらかった…」と答えていましたが、
「来年も必ず行く」とも言っています。
ただつらいだけの旅ではなく、
得る物が多かった旅だったんだとつくづく感じています。
今は誘ってくれた野球部の保護者に感謝しています。

それからほんの五日間でこんなに変わるのかとおどろきもありました。
まずくつをそろえる・近所の人に大きな声であいさつをする・
お店等で大人に敬語を使って自分から話しかける・わがままを言わない・等
細かく言えばまだありますが、いったいどんな指導をしてくれたのか、
私も指導を受ける必要があるのではないかと思わされるほどの変わりようです。
少しでも長く継続できるよう一緒に努力をしていきたいです。

来年の準備も早々に始まることと思います。
このような思いをされる家族が少しでも増える事を願っております。
そのためにも本当に大変なことばかりだとは思いますが、今後も頑張ってください。
本当にありがとうございました。

乱筆乱文で失礼いたしました。